

ヒョウモンダコ～小型のタコに御用心!～

海洋生産技術担当 石川陽子

Key word: ヒョウモンダコ, テトロドトキシン

ヒョウモンダコとは

読者の皆さんはヒョウモンダコ (*Hapalochlaena faciata*) を御存知でしょうか。褐色～黄褐色の体に興奮すると鮮やかな青の模様が出るのが特徴的な、体長 10 センチ程度の小型のタコです(写真 1)。このタコ、唾液にフグ毒と同じテトロドトキシンを含んでおり、咬まれると大変危険です。本来は熱帯・亜熱帯の海の生き物とされていて、飼育する場合の水温は 25 前後が目安、11 くらいになると餌が食べられなくなり死んでしまうそうです。しかし、ダイバーの方などのブログを拝見していると 15 前後の海でも活動しているところが目撃されているようで、意外と低い温度にも耐えられるようです。よく似たタコにオオマルモンダコ (*Hapalochlaena lunulata*) というタコがありますが、こちらのタコも同じ毒をもつタコです。

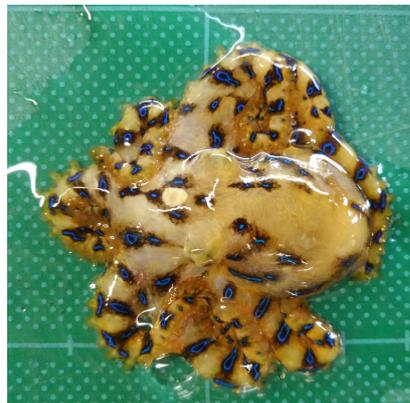


写真1. ヒョウモンダコ

ヒョウモンダコ新聞記事になる

2017 年 10 月 4 日に、牟岐町の松ヶ磯で生物調査をされていた NPO 法人の方がヒョウモンダコらしいタコを見つけて、鑑定のために水産研究課美波庁舎に持ち込んでくださいました(写真 2)。実際そのタコはヒョウモンダコで、この一件はその後、新聞などにも取り上げられました。



写真2. 2017年10月4日に発見されたヒョウモンダコ

一躍有名蛸となったヒョウモンダコですが，実は，漁師さんたちには結構知られた存在だったようです。

ヒョウモンダコはいつからどこに

ヒョウモンダコは，最初に紹介したとおり暖かい海に住む小さなタコです。冬場には県南にある水産研究課美波庁舎（美波町日和佐浦）の汲み上げ水温でも 14 前後まで下がる徳島の海に昔から住んでいたかどうかは定かではありません。しかし，1965 年に出版された「新日本動物図鑑」に，相模湾、八丈島に並んで徳島県鳴門が生息地として揚げられていることから，「定住している」かどうかは別として昔から目撃されていたようです。

さらに，今回，阿南市以南の漁協に聴き取ったところ，この数年の間だけでもほとんど全域で目撃例がいくつもあることが判りました。

風評被害を避けるために具体例の紹介は避けたいと思いますが，時期がわかっているものでは秋、冬から春先の目撃例が多いようでした。この理由としては，イセエビ漁等の網揚げ時，海士漁で潜っている時などに目撃されることが多いようなのでその漁期と関係しているのかもしれませんが。また，ヒョウモンダコの寿命が 1 年で，春から初夏にかけて産卵し死亡するとされていることから，夏場には見つけられるサイズの個体がいらないのかもしれませんが。

静岡県の水産技術研究所伊豆分場が発行している「伊豆分場だより」の第 330 号で全国のヒョウモンダコが観察された例がまとめられていました。それによると，ヒョウモンダコは太平洋側では黒潮流域の千葉県以西の愛知県を除く全県で，日本海側では対馬暖流域の福井県以西の全県で見つかっています。また，瀬戸内海でも黒潮の波及のある大分や大阪、兵庫県の淡路島などでも見つかっているようです。

ヒョウモンダコに御注意を

これらのことから，10 月に牟岐でヒョウモンダコが見つかったのは，残念ながら特殊な事例ではないようです。数は多くなく，遭遇確率は低いかも知れませんが，徳島の海にヒョウモンダコは存在しています。漁撈作業や海でのレジャーの際には，蛍光ブルーの模様のある小型のタコに十分注意してください。

参考文献

伊藤 円 伊豆分場だより第 330 号「ヒョウモンダコの観察事例」静岡県水産技術研究所伊豆分場. 2012 (<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu/0006/330/330-4.pdf>)

土屋光太郎・山本典暎・阿部秀樹「イカ・タコガイドブック」ティービーエス・ブリタニカ，東京，2002，114-115.

岡田 要「新日本動物図鑑[中]」北隆館，東京，1965，325

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産研究所ホームページ「ヒョウモンダコ
を見つけたときはご注意ください!!」

(<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/zukan/station/osakawan/hyoumon.html>)